

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 25 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22520031

研究課題名（和文）人の生命に関わる意思決定の倫理的価値構造に関する研究

研究課題名（英文）Ethical value structure of decision making relation to human life

研究代表者

吉武 久美子 (YOSHITAKE KUMIKO)

順天堂大学・医療看護学部・准教授

研究者番号：90468215

研究成果の概要（和文）：本研究成果は、生殖医療領域での倫理的問題の現状分析と問題解決策の導出として、『産科医療と生命倫理』（単著、昭和堂、2011）を刊行するとともに、複雑な状況での合意形成に必要な「理由の来歴」という概念を導出し、発展させたことである。その成果は、「医療の合意形成と理由の来歴の概念について」（日本医学哲学・倫理学会、2010）での発表および、論文「医療の合意形成と「理由の来歴」、医学哲学医学倫理（2012、63-72）の掲載、アジア生命倫理学会にて、‘Prospective Consensus Building based on History of Reason and List of Risks’（2012）と題しての発表、さらに‘Prospective Consensus Building- Ethical consideration on History of Reason and List of Risks’を *Philosophy Study* 誌に投稿し、受理された。

研究成果の概要（英文）：The main outcomes of this research are two points; the first is to analyze the ethical issues concerning conflicts of reproductive medicine and to show the methodology of conflict resolution and decision making. *Obstetrics medicine and Bioethics* (Syowado) published in 2011 is an achievement of this research.

The second is to introduce a new concept, ‘history of reason’ for the theory of consensus building and to develop this concept as “prospective consensus building”. I presented a paper, “Consensus building in medicine and the concept of reason of history” at a conference of the Japanese Association for Philosophical and Ethical Researches in Medicine. The paper, “Consensus building in Medicine and the concept of history of reason” was published in *Annals of Japanese of Association for Philosophical and Ethical Researches in Medicine* in 2011.

In addition, I developed the concept, “history of reason” and the concept of “prospective consensus building”, and presented, “Prospective Consensus Building based on History of Reason and list of Risks”, at 13<sup>th</sup> Asian Bioethics conference in 2012. This paper was accepted by *Journal of Philosophy Study* in 2013.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1, 100, 000	330, 000	1, 430, 000
2011 年度	700, 000	210, 000	910, 000
2012 年度	700, 000	210, 000	910, 000
総計	2, 500, 000	750, 000	3, 250, 000

研究分野：倫理学

科研費の分科・細目：哲学 哲学・倫理学

キーワード：意思決定・合意形成・倫理的価値・理由の来歴

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

### 1. 研究開始当初の背景

人権侵害や医療者の倫理的義務違反など、倫理的価値にかかわる事例は、インフォームド・コンセントのように、倫理的価値が法制度のなかで具体化され、医療のトラブルがこうした倫理と法をめぐる問題として顕在化しているという状況から発生する。

患者と医師、その他の医療者、患者の家族の間での倫理的価値をめぐる意思決定状況から発生する対立・紛争、さらには訴訟の問題は、産科・小児科や外科医療への従事者の減少をもたらすなど、大きな社会的影響を与えている。医療対立・紛争が訴訟に至るリスクを患者・医師ともに回避することは、社会全体の医療制度の改善を考える上でも重要なテーマである。

さらに、人の生命に関わる意思決定を紛争や訴訟との関わりにおいて捉え、そこにどのような倫理的価値の問題が介在しているか、問題解決のための倫理的価値の理論はどのようなものでなければならないかということをも明らかにすることは、現代倫理、とくに、生命倫理・医療倫理の領域における緊急の社会的ニーズになっている。

こうした社会的背景から、国内での医療にかかわる合意形成については、倫理的問題に関するガイドラインの作成等に関して「不特定多数者間での社会的合意形成」の問題として論じられてきた。他方、医療現場での個々の意思決定に関しては、インフォームド・コンセントの観点から、「患者による同意」と「医療者と患者の合意による決定」の対比のもとで研究されている。法学分野では、医療訴訟のADR（裁判外紛争解決）の研究が主流であり、関係者間の対話型プロセスを重視した「トランスフォーマティブ・アプローチ理論」も提示されてきている。

他方、海外での「合意形成論」に関する研究では、多主体が関与する医療現場の倫理的課題に対し合意形成や意思決定を行うことの困難さについて報告されている。また、行為を軸足に置く合意形成と理論に軸足を置く合意形成を対比させて論じられている。

応募者は、これらの動向を視野に置き、これに加えて、保健師・助産師・看護師としての医療・看護現場での経験を踏まえつつ、医療・看護における意思決定の問題を「合意形成論」の観点から研究してきた。

本研究は、合意形成理論を用いて、人の生命に関わる意思決定を行う際に、倫理的価値構造の分析を行うとともに、問題解決のための理論を構築する。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、医療関係者、および患者、患者・家族間の対立、紛争における倫理的価値の構造を明らかにすることである。

### 3. 研究の方法

(1) 「患者の人権」、「自己決定権」や「患者と医療者間の信頼関係」、「医療資源とリスクの負担の配分にかかわる正義」などの倫理的価値はどのように取り扱われているかという現状分析を行う。

(2) 対立・紛争を解決するための基本的な考え方はどうあるべきかという解決の方向性の探索を行う。

(3) 紛争・対立等の解決のための倫理的価値の理論はどのようなものであるべきかという理論化を行う。倫理的価値の対立に関する理論的基礎と実践的解決についての研究は、応募者がこれまで進めてきた「意思決定のための合意形成論」を適用する。

### 4. 研究成果

本研究は、3年間で以下の成果を得た。

平成 22 年度は、生殖医療の意思決定の場面で起きる倫理的価値の対立に着目し、その複雑な構造を分析した。また、難しい意思決定の構造分析には、関係者の思いや意見の背景にある理由（インタレスト）を深く分析するために、「理由の来歴」という概念を導いて、この概念について研究し、その成果を第 29 回日本医学・哲学倫理学会で発表した。また、これらの研究成果をまとめた『産科医療と生命倫理—よりよい意思決定と紛争予防のために』（昭和堂）を 2011 年 5 月に刊行した。医療と合意形成の関係については、『合意形成学』（勁草書房、2011 年 4 月）に寄稿した。さらに、医療・看護領域での現場での倫理的価値の対立の解決の方法については、合意形成の観点から検討しつつ、医療現場の倫理教育の設計のあり方についても考察した。その成果は、第 12 回日本感性工学会で発表した。

なお、終末期医療、看取りの準備教育と合意形成との関係について関係者との意見交換を深め、生命に関わる倫理的価値構造の研究の視野を生殖と誕生から終末期の死、および災害や交通事故などの不慮の事故による死へも広げ、ライフサイクル・ライフステージの観点、および生命に対する多様なリスクとそれへの対応を「医療空間マネジメント」の観点から考察する必要があるということを確認するに至った。

平成 23 年度は、関係者の思いや意見にある理由を深く分析するための「理由の来歴」という概念を用いて、ライフサイクル・ライフステージ、災害、緊急時などの多様な状況によって、倫理的価値の扱われ方がどのように異なるのかを明らかにした。研究成果は、論文「医療の合意形成と理由の来歴」を「医学哲学・倫理学会」誌に投稿し、掲載された。

最終年度の平成 24 年度では、合意形成における「理由の来歴」の概念を展開させて、意思決定モデルの一つとして、「予期的合意形成モデル（Prospective Consensus Building）」を創出し、他のモデルとの比較、分析を行った。その成果として、意思決定の価値構造の分析において、理論面では、合意形成の概念を時間軸に焦点をあてて深く理解することができた。他方、実践面では、医療・看護領域での倫理研修の依頼を受けて、本研究の成果を組み込んで実践者を対象にした研修、教育を行った。

本研究の成果は、アジア生命倫理学会で ‘Prospective Consensus Building based on History of Reason and List of Risks’ と題して発表した。また、本論文を発展させて、 ‘Prospective Consensus Building-Ethical consideration on History of Reason and List of Risks’ を *Philosophy Study* 誌に投稿し、受理された。また、性と生殖に関する倫理の問題について、加藤尚美編『基礎助産学 第 1 巻 助産学概論』の「第 4 章助産師と倫理」を執筆した。

本研究の成果の一つとして、合意形成における関係者間における情報提供・共有の方法の検討および情報にかかわる「正義」という倫理的概念の検討が必要不可欠であるという認識に至った。そこで、平成 25 年度科研費基盤研究（C）に「人の生命・健康に関わる医療情報の価値構造に関する研究」と題して申請し、採択された。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 9 件）

- ① KUMIKO YOSHITAKE. ‘Prospective Consensus Building-Ethical Consideration on History of Reason and List of Risks’,

Philosophy Study, peer-reviewed, 3(5), 2013, (accepted, in press).

- ② 吉武久美子、「医療の合意形成と「理由の来歴」、医学哲学医学倫理、査読有、29巻、2012、63-72.
- ③ 高田知紀、豊田光世、佐合純造、関基、秋山和也、桑子敏雄、「社会基盤整備における合意形成プロセスの構造的把握に関する研究」、土木学会誌、査読有、68巻1号、2012、27-39.
- ④ 桑子敏雄「災害復興と合意形成」、ARDEC、査読無、45、2011、2-6.
- ⑤ 桑子敏雄、「地震・津波・大規模汚染災害と再生のための合意形成」、経済調査研究レビュー、査読無、9巻、2011、2-6.
- ⑥ 桑子敏雄、「合意形成の場における専門家の役割について」、土木学会誌、査読無、98巻、2号、2011、45.
- ⑦ 桑子敏雄、「風景と人間-空間における「見る」「行く」「つくる」感性工学、日本感性工学会、査読無、10巻、1号、2010、10-17.
- ⑧ 桑子敏雄「国土政策と社会的合意形成のプロジェクトマネジメント～歴史と現場からの考察」、季刊・政策・経営研究、査読無、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社、16巻、2010、19-37.
- ⑨ 桑子敏雄「地域共同空間（ローカルコミュニティ）の維持管理と再生のための社会的合意形成について」社会と倫理、査読無、南山大学社会倫理研究所、24巻、2010、49-62.

[学会発表] (計4件)

- ① KUMIKO YOSHITAKE. 'Prospective Consensus Building based on history of reason and list of risk', Asian Bioethics conference, 2012.8.28, Malaysia.
- ② 吉武久美子、「医療の合意形成と理由の来

歴の概念について」、日本医学哲学・倫理学会、2010.11.盛岡市.

- ③ 吉武久美子、「合意形成手法を取り入れた病院内の看護倫理研修の設計」、日本感性工学大会、2010.9.東京目黒区.
- ④ TOSHIO KUWAKO. 'The Profile of the Local and the Ethics of Consensus Building, International Conference on "Agricultural Ethics in East Asian Perspective"', International Conference on "Agricultural Ethics in East Asian Perspective", pp. 151-157, Mar. 2012.

[図書] (計3件)

- ① 吉武久美子、日本助産師会出版会、「基礎助産学 助産学概論」、2013年、97-125頁.
- ② 吉武久美子、勁草書房、『合意形成学』、2011年、227-244頁.
- ③ 吉武久美子、昭和堂、『産科医療と生命倫理』、2011年、252頁.

[その他]

ホームページ等

[http://www.juntendo.ac.jp/graduate/nurs/research/profile\\_35.html](http://www.juntendo.ac.jp/graduate/nurs/research/profile_35.html)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉武 久美子 (YOSHITAKE KUMIKO)

順天堂大学・医療看護学部・准教授

研究者番号：90468215

(2) 連携研究者

桑子 敏雄 (KUWAKO TOSHIO)

東京工業大学大学院・社会理工学研究科・教授

研究者番号：30134422